

題字提供やイベント出店で独自の書法が好評を得る

ダイナミックな「はね」や「はらい」、一般的な書道とは「線を画した」と「とめ」。独自の書法で、力強い作品を次々と書き上げている大垣市の書家、しんらんさん。同じ字であつても、何度も紙を変えては書き、納得できる作品に辿り着くまでには長い時間を要します。

しんらんさんが書道を始めたのは、今から14年ほど前。しんらんさんの子どもが習字の宿題をする姿を見て、押入れから小学生のときに使っていた

た書道セットを探し出し、親子で一緒に書いてみたのがきっかけでした。それまで書道の経験といえば、小学校の授業で習った程度。ところがいざ筆を持つてみると、自分の心の中にあつた言葉がごく自然に文字として現れてきて、その楽しさにすっかり夢中になってしまったと語ります。やがて文字のかたち自体にも興味があり、気に入った書家の作品を参考にしたたり、書道八段の妻に助言をもらったりしながら、自由に書き続けたしんらんさん。2009年頃に地元イベントに出店し、大きな転機を迎えます。

「名前とメッセージを書いて差し上げたらずい喜んでいただけました。自分の書で、たくさんの人たちを笑顔にできる。そのことにとっても大きな感銘を受けたんです」

2011年には、岐阜県労働者福祉協議会と県による文化事業「第45回岐阜県働く者の県展」の書の部で入選。地元のバレーボール実業団チーム「イビデンレグルス」のTシャツや、大垣日本大学高等学校の男子バレーボール部の横断幕などへの題字の提供、地元企業のイベントでの書道パフォーマンスと、次々に活動の幅を広げていきました。5年ほど前

巻頭特集

書を通して繋がる笑顔

大垣市の書家

しんらんさんが目指すもの

新年号である今月号の「WaorClub」表紙に、「繋の一字と温かなメッセージ」を寄せてくれたのは、我流で築き上げた力強い書が話題を呼んでいる書家のしんらんさん。書を始めたくっかけやこれまでの活動と合わせ、新型コロナウイルスの拡大に端を発する地域貢献活動、秋から始めたばかりというアート書道について聞きました。

からは、市が主催する「かがやきライフタウン大垣・春のつどい」と「同・秋のつどい」に毎年出店。たくさんの方の命名書を書いて、多くの人たちに喜ばれています。

コロナ禍を契機に始めたさまざまな貢献活動

2020年は新型コロナウイルスの影響もあり、出店を予定していたイベントが相次いで中止。それでも、何か人の役に立てないかと考え続けていたしんらんさんは、あるニュースを目にします。それは、激務が続いて自宅に帰れない医療従事者がたくさんいる状況を伝えるものでした。そこで医療従事者に感謝の気持ちを伝えようと、関東の聖マリアンナ医科大学病院と等松町の松波総合病院、岐阜市にある等松病院や岐阜市民病院など地域内外6院に、「感謝」や「命」など書いた書を寄贈しました。



大きな紙を使う書道パフォーマンス。さまざまな活動を通して、書の魅力を伝えていこうとしています



クレヨンをバーナーで溶かし、上から垂らしていきます。クレヨンによる細かなしぶき、凹凸も見どころ

また、中学生や高校生の大会が軒並み中止になった事態を受け、長女が通う県立岐阜商業高等学校のバスケットボール部に色紙をプレゼント。少しでも元気つけようと、1人ひとりのコートネームを書いて渡しました。

「コロナ禍でつらい思いをしている方や、さまざまな影響を受けている方たちに、書を通して何かを感じ取っていたらうれしいです」

さらに京都の病院へ向けては、約200枚のポストカードを寄贈。その功績を認められ、10月には京都市より特別表彰が授与されました。

さまざまな画材を使うアート書道にも挑戦

2020年の秋からは、新たなスタイルを確立するため、絵画の要素を取り入れたアート書道にも取り組

んでいます。道具は黒の墨だけでなく、金墨汁や万年筆の赤インク、青色の建築用塗料など、さまざまな色の材料を使用。ほかにもバーナーで溶かしたクレヨンを書の上に垂らしたり、注射器に入れて噴射したり、ヘアで伸ばしたりと、試行錯誤を重ねています。

「書いている途中で最初のイメージから逸脱し、逆に良い作品に仕上がる場合も。同じものを2回書こうと思っても、できないのが書の魅力です。それに『もつとかつこよくしよう』『もつとおもしろくしよう』と集中して書いていると、次々に新しいアイデアが浮かんでくるんです」

今後は絵画用のキャンバスの使用や、アクリル絵の具を使って立体感を出すなど、思いついたアイデアを試していきたいとほほ笑みます。

一方で幼稚園児や小学生が大きな紙を使って自由に書けるイベントのほか、地域の高齢者を対象とした教室の開催なども検討中。書の楽しさを多くの人に伝えていく活動にも、力を入れていきたいと話します。

「とくにコロナ禍の今は大変なことでも少なくありません。しかし、こんなときこそ、人と人との繋がりを大切にしたい。みんなが明るく笑顔で暮らせる社会を目指し、書を通して多くの人を元気つけられるような活動を行っていききたいと考えています」

文字だけで人の心を動かせる書家を目指して。しんらんさんは、これからも心を研ぎ澄ませ、書に向き合い続けます。

「これで完璧という作品は決してありませんし、同じ字は二度と書けない。それが書のおもしろさ」



- 1 「星」を3つ並べて空に瞬く様を、さらに絵で月を表現。しんらんさんのオリジナルティアーが光ります
- 2 文字の上に白やピンクのクレヨンを落としたアート書道の作品
- 3 龍が炎のように燃え上がりながら登っていく様子をイメージした作品。「何事にも挑戦していこう」という思いが込められています
- 4.5 子どもが生まれた人に渡している命名書。命名書に書いた文字をTシャツやキーホルダーにして、今後はセットで渡したいと教えてくれました



書家
しんらんさん
大垣市出身。現在も生まれ育った大垣市を拠点に活動しています
[問い合わせ]
www.shinran17.com/
公式サイトにリンクされているInstagramやツイッターのDMから連絡をとれます

しんらんさん作の「福始」「縁」の書を5名様にプレゼント!
詳しくは●ページへ